

河北新報

2025年（令和7年）12月28日（金）

“札・仙・広・福の動向学ぶ”

札・仙・広・福の動向学ぶ

不動産や金融の専門家をつくるアセットブレインズ仙台ネットワーク（仙台市）は21日、仙台市青葉区の仙台商工会議所で「不動産ファンドフォーラム2025イン仙台」を開き、地方都市のオフィス市場動向など不動産マーケットの実態を学んだ。ニッセイ基礎研究所（東京）の吉田資上席研究員は、地方ブロックの中核を担う札幌、仙台、広島、福岡各市のオフィス市場の動向を説明。再開発プロジェクトが活況を呈する福岡市では半導体関連産業の集積が進むほか、政府の「金融・資産運用特

仙台で不動産フォーラム

「オフィス整備 ニーズ継続」



国内の不動産投資市場の現状を学んだフォーラム

区」指定を活用したスタートアップ企業の支援や誘致が好調に

進展していると解説した。

各都市に共通する傾向として「人手不足を背景に、従業員の満足度向上などを目的としたオフィス環境整備のニーズが継続するだろう。各エリアの需要に合わせた事業戦略を練る必要性がある」と指摘した。

不動産証券化協会（東京）フエローを務める宮城大の田辺信之名誉教授は、不動産投資市場の現状を解説した。コロナ禍やインフレの進行などで2022、23年には取引額が3兆円台に減少したものの、24年には約5・5兆円に増加し、25年上期は前年を上回る水準と説明。「日銀の金利引き上げの延期や金融緩和環境の継続が市場を下支えている」と話した。